

空

仏のこころに 鬼の面

仏の面に鬼のこころ

やさしそうなことを言いつて

人トウソを教える

ウマそうなことを言いつて

人にケンカをさせる

仏のこころに鬼の面

見た目は優しい……けど
あなのために役立ってくれよう

仏のこころに仏の面

これが一番厳しい道

ゴマカシたり

ウソはつけないのだから

人生の岐路に立つて

(神戸くだけかけ会にて)

様々な岐路

昨年は国の方向としての大きな岐路に立たされました。「戦争をしない国」でいるのか「戦争のできる国」にするのか？ まあ、憲法の問題ですが……。特殊な立場の人達だけで勝手に決めていい問題ではありませんからね。よく考えなくては……。本当に難しい岐路に立っているのです。

もっと身近なことでもたくさん岐路があります。進学、受験、就職、結婚、病気……。もともと身近な日常では、食べること、寝ること、学ぶこと、遊ぶこと、働くこと、すべてのことで、毎日、毎回、毎時、毎分、極端にいえば毎秒毎秒が岐路なのです。ところが、そんなことをこまごまと考えていては不安で心配で何もできませんから、大きな判断基準の「方向」を決めておけばよいということなのです。

大小様々な岐路に立つて、そのどれを選んでも行くかが「人生」であって、その人の生き方なのです。よく考えればどちらを選ぶかはその人の人生における「価値観」というわけです。健康を害していると知っていてもお酒をやめられずたくさん飲んでしまったり、甘い物を食べ過ぎたりしている人はたくさんいますからね。(ほくですけど)

判断基準

さて、それではその選択を決める判断基準というものはどこにあるのでしょうか。たいていは自分の「都合」に照らしてみるわけです。その「都合」がどこから出てくるのか？ 気分なのか？ もっと確たるものなのか？ 「アレがイヤだ、コレがイヤだ」とわがままを言っ親を振り回す子どももいます。親の方も判断基準が「自分の都合」に照らしているからグラグラとしていきます。あっちフラフラこっちフラフラです。判断基準はどこに定めたらよいのでしょうか。

国の判断基準でも「資本主義」とか「国家主義」とか「社会民主主義」とかいろいろで税金の仕組みや福祉の考え方や、国民と国家という関係やその他の基本的な考え方の差によって「しあわせの質」が揺れ動くのです。

教育に至っては、どこに人間の価値を置くのかによってまったく「しあわせ」を見失うことだってあるのです。成績や点数なのか、もっと大きな意味での能力伸長なのか？ ですから、人生の岐路に立った時に何を選ぶかはとても大切なことです。

当りハズレのない選択

判断基準を人生の表面の所に置けば、運が良かったり悪かったり、その結果に当りハズレが生じます。「しあわせの質」が揺れ動くからです。より深い所、より根源的な所にその答えを求めれば当りハズレは少なくなっていくます。根源と言うのは「自分とは何か」「人間とは何か」という問いの答えのことです。そこを考えるととも味わうこともしないでいると「平和」も

「しあわせ
してしま
世界のり
を考えも
している
の辺が疑
ウマイ
イヤなこ
人間の心
ことラク
いるよう
「やらな
分かって
大変そう
ろう」と
一方で、
つちなだ
がからん
あるのだ
大変な方